

## 令和4年度 全国高校生体験活動顕彰制度

### 「地域探究プログラム」オリエンテーション合宿 in 諫早

学校参加型（長崎県立北陽台高等学校） 令和4年4月20日（水）～21日（木）

【担当：小野 栄策】

#### 1. 事業の背景

18歳（高校3年生）は選挙権の獲得（2016年施行）、成人年齢の引き下げ（2022年施行）など、以前と比べ、社会に関わることが求められています。また、進路の決定等人生の選択の1つの岐路にあります。そのため、高校生は、予測できない変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して自らの可能性を高めることが必要になっています。

新しい高等学校学習指導要領では「総合的な探究の時間」の目標において、「探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながらよりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成することを目指す」ことが示されました。

以上のような現状を踏まえ、国立青少年教育振興機構（以下、機構）では「体験活動を通じた青少年の自立」を目指し、各施設の立地条件を活かした特色のある活動展開、多様な体験活動の機会を提供するノウハウを生かし、「新たな価値を創造する人材の育成」へのアプローチとして、本制度を創設することとしました。

本所では、機構の方針を受け、昨年度「防災」をテーマに「探究のプロセス」について学ぶことを目的とした「オリエンテーション合宿」を行いました。1回目は、広く県内全域から参加者を募集する個人参加型での事業を開催しました。2回目は、学校参加型として長崎県立平戸高等学校と連携して行いました。

今年度は、さらに「森林」「協働の学び」をテーマにしたプログラムを開催し、4月に学校参加型、8月に個人参加型の事業を開催することとしました。

#### 2. 事業の趣旨

高校生が地域づくりや地域の課題解決などに関する体験活動を通して、課題発見・解決能力を高め、それぞれの実践活動の成果や自身の成長を適切に評価する力を身に付けることにより、新たな価値を創造する人材を育成するとともに、青少年の体験活動に関する社会的な認知を高めます。

#### 3. 目標

- (1) 地域の課題解決などに関する体験活動を通して、課題発見・解決能力を高める。
- (2) 1年生に理数科生としての自覚をもたせ、集団行動を通して、協調性や自主性を養う。

#### 4. 対象

長崎県立北陽台高等学校 第1学年（1クラス：40名）

#### 5. 事業の実施

##### (1) 期日

令和4年4月20日（水）～21日（木） 1泊2日

## (2) 参加者

学校参加型（長崎県立北陽台高等学校）

	男	女	引率	計	備考
1年生	20	19	2	41	

## (3) 日程

1日目	1日目	2日目
6:30	学校出発	起床・準備
7:00		朝食（レストラン）
8:00		清掃活動
9:00		発表準備
10:00		研修4 発表「仮説についての発表」
10:30	入所式	研修5 「実践活動のためのガイダンス」
11:00	野外炊事（調理）	
12:00	昼食（野外炊事）	昼食（レストラン）
13:00	野外炊事（片付け）	学級レクリエーション
14:00	研修1 ガイダンス（森林環境）	
14:30	研修2 フィールドワーク（森林探索）	
15:00		夕食（レストラン）
17:00	夕食（レストラン）	16:00 学校着
18:00	入所OR	
19:00	研修3 「探究のプロセスの基礎・実践」	
21:00	入浴、就寝準備等	
22:30	就寝	

## (4) 活動の様子



### 【入所式】

出会いの時間です。生徒一人一人が自己紹介をしました。入学してまだ間もないだけに、お互いを知る良い機会となりました。開会行事では、職員の自己紹介、地域探究プログラムの概要の説明などを行い、今回の合宿が学級の親睦を深めことも目的の一つであることを確認しました。



### 【野外炊事】

探究活動を行うグループごとに、役割分担と協働作業の意識を高めるために、まず野外炊事（カレー作り）を行いました。準備や調理、片付けの工程をみんなで確認しながら、作業にあたりました。火がつかなかったり、お米が炊けなかったりする場面もありましたが、メンバーがフォローしあって無事に昼食をとることができました。



### 【森林環境ガイダンス】

九州電力長崎支店広報グループ池上さん、井原さんからエネルギーと環境について、県央振興局農林部林業課普及班専門幹黒岩さん、黒川さんから長崎県の林業の概要とウッドショックについて説明をしていただきました。幅広い知識を紹介した難しい内容でしたが、みんな真剣に耳を傾けていました。



### 【フィールドワーク（森林探索）】

九州電力みらい財団が進めている植林地や諫早市が行っている人工林を自然林に生まれ変わらせるための伐採地を観察するために、ウォークラリー形式で森林探索を行いました。また、動物・植物にも目を向け、観察カードに気づきを記録しました。地図の見方が十分に理解できておらず、時間通りにコースを周ることができませんでした。



### 【探究のプロセス】

NPO法人インフィニティー理事長野口さんのコーディネートのもと探究のプロセスについて学習した後、森林環境ガイダンスやフィールドワークで考えたこと、疑問に思ったことをグループで出し合い、今後、みんなで調べたいことをひとつにまとめました。



### 【発表準備】

昨日から話し合ってきた内容を模造紙にまとめました。講師の先生からアドバイスしていただいた「やりたいこと、できること、やらねばならないこと」を意識して熱心に話し合いをしていました。所々、講師の先生に質問したり、タブレットで調べたりしながら提案する内容を精査しました。模造紙にまとめる人、原稿を準備する人、説明図を書く人など、役割分担を行いながら、準備を進めました。



### 【仮説についての発表】

模造紙にまとめた課題と課題解決のための仮説、検証方法をクラスで共有しました。発表は班別に行い、自分たちに何ができるのかを高校生の目線で考え、分かりやすく発表しました。発表後は質疑応答の時間を設け、意見交換することで、学びの質を高めました。

## 6 評価

### (1) アンケート結果（キャンプ全体に対する満足度）

	満足	やや満足	やや不満	不満
長崎北陽台高等学校	97%	3%	0%	0%

### (2) 参加者の声

- ・クラスの仲も深まったと思うし、これから色々なことをじっくり考えていきたい。
- ・みんなで話し合う力がつきました。
- ・協力することの大切さを知ったので、これからの学校生活に生かしたいです。
- ・他の人の意見を聞くことで視野が広がりました。
- ・助け合うことの大切さを学びました。男女関係なく仲良くなれてよかったです。
- ・様々なことに関心が高まったので、学校でその疑問を解決していきたいです。
- ・研究を進める時に、どのような手順で進めればよいか理解することができた。
- ・みんなで考えることの大切さを学びました。たくさんの失敗と成功を体験して、濃い二日間でした。

## 7 成果と課題

### (1) 成果

- ・様々な立場の方々（九電の取組、林業課の取組、NPO法人インフィニティーの取組）が生徒たちに森林環境についての取組や課題を紹介し、生徒の興味・関心を高めることができました。
- ・個人ではなく、クラスやグループで考えることの良さを体感させ、探究のプロセスを学ばせることができました。
- ・入学して間もないこの時期に合宿を行えたことで、クラスの仲も深まり、今後の学校生活を円滑に進めるための一助となりました。

### (2) 課題

- ・生徒の実態や先生方の思いを把握し、本所の事業を開催するにあたっての目的とすり合わせしていく必要があります。
- ・所属する高等学校との連携等、オリエンテーション合宿で高まった活動へのモチベーションを保つための方策の検討が必要です。
- ・オリエンテーション合宿の内容や取組のよさを長崎県内の高等学校の教諭に広報する必要があります。

### (3) 今後の展望

- ・今回行った学校参加型探究活動の成果や課題を生かして、本所が提供できる探究プログラムを作成し、来年度から創設される文理探究科（仮称）（長崎県内5校）を中心に個人参加型探究プログラムの広報活動を積極的に進め、次年度の学校利用につなげられるように、各学校の担当者を取組を紹介します。